

東京産業遺産学会 (TIAS)

2024. 12. 03

ニューズレター

No.0167

行事予定

12月15日(日) < 講演会「ドイツ蒸気機関車保存のふるさと

マイニンゲン工場を訪れて」 >

時 間:13:30~15:30 会費:1,000 円 (資料代・入館料含む) [予約不要]

場 所:物流博物館 港区高輪 4-7-15 TEL 03-3280-1616

JR「品川」駅高輪口または京浜急行「品川」駅 徒歩7分

講 師:久保 健 (日独協会会員)

※講演後に物流博物館学芸員による、開催中の特別展「明治の鉄道古写真」のギャラリートークも行います。

本邦において、蒸気機関車の運転は各地で行われ、高い人気を誇っています。ドイツでは鉄道博物館や愛好家団体、鉄道運行会社による運行が行われ、200両以上の蒸気機関車が動態保存されています。この規模や熱意はどのように支え続けられているのでしょうか。東ドイツ国鉄では1988年まで蒸気機関車の定期運行が行われていた特殊事情はあり、本邦と比べ設備や環境は整えられていますが、車両の維持、活動への資金調達、そして技術力の確保など様々な課題があり、これまでに対応されてきたと思われます。ドイツの鉄道博物館に足を運び、数々の貴重な車両のご説明をいただきつつ館内をまわりますと、最後はお金と部品確保の話になるなど、鉄道文化遺産の保存と活用には避けがたい問題と言えそうです。

今回の講演は、「マイニンゲン蒸気機関車工場(Dampflokwerk Meiningen)」を主題にしています。この工場は旧東ドイツ地域にあり、1914年設立以来、ドイツ国有鉄道や東ドイツ国鉄の蒸気機関車の定期検査や改造を行っています。東西ドイツ統合後、一時は閉鎖も検討されますが、様々な大きさや軌間の蒸気機関車の整備に対応できる設備やノウハウの蓄積が評価され、現在までドイツ鉄道の関連会社として運営をされています。法により定められた4年ごとの蒸気機関車の定期検査、8年ごとのボイラー試験の実施はもとより、2000年以降は蒸気機関車の新製も行なうなど、東ドイツ時代から維持されてきた技術や実績は、ドイツの蒸気機関車保存に欠かせないものになっています。鉄道文化遺産は「活動無くして保存無し」と評されますが、マイニンゲン蒸気機関車工場は、動ける鉄道文化遺産の保存活動を技術面から支える原動力と言えるでしょう。当工場のあゆみや現状を通じ、蒸気機関車が保存される意義や課題をお話ししたいと思います。

(久保健・記)

